

宇宙天気ユーザー協議会 衛星分科会の取組

国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）

執行役 安井 元昭

（宇宙天気ユーザー協議会衛星分科会長）

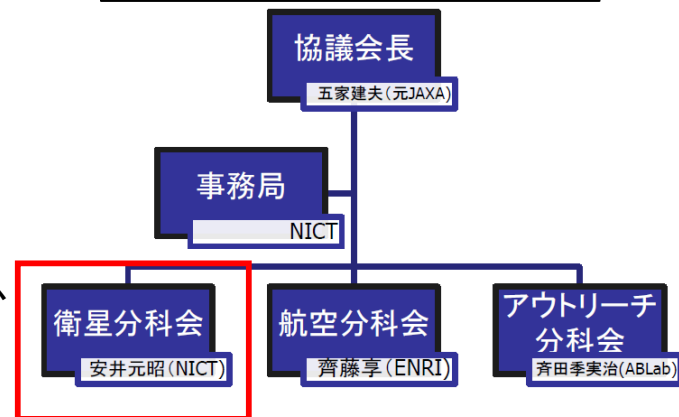
1. 宇宙天気ユーザー協議会衛星分科会

● 宇宙天気ユーザー協議会

- PSTEP¹において、宇宙天気情報についてユーザーとの双方向コミュニケーションを形成するために2015年に設立。2021年11月までに12回開催
- 宇宙天気情報に関するニーズ・シーズマッチングおよび関連アプリケーションのフィードバック等の活動を実施
- 個々の案件についてより深い議論を行うため、2021年11月に五家建夫氏(元JAXA)を協議会会長に選任したほか3つの分科会(衛星分科会、航空分科会、アウトリーチ分科会)を設置



第8回宇宙天気ユーザー協議会
(2020.2.21)



宇宙天気ユーザー協議会組織図

● 衛星分科会 (分科会長 安井元昭(NICT))

- JAXA、衛星メーカー、衛星追跡管制事業、損保会社、大学等有識者で構成
- 検討会配下のWGにおける衛星運用に対する指標・予警報のあり方の検討結果等を踏まえ、宇宙環境観測、データ・情報サービス利用等を議論
- 第1回会合を2月21日に開催予定

1 正式名称：文部科学省科学研究費補助金新学術領域（研究領域提案型）研究期間：平成27-31年度「太陽地球圏環境予測ー我々が生きる宇宙の理解とその変動に対応する社会基盤の形成ー」

2. 衛星分科会の主なアクションプラン(案)

□ 具体化していききたい課題：

→ 宇宙環境データ・情報サービス利用のあり方

- データや情報サービスの提供方法
- データ・情報サービス利用のユースケース、ビジネス検討

→ 今後の宇宙環境観測のあり方

- 衛星本体（専用衛星 and/or 相乗り装置）
- 軌道構成（GEO and/or LEO and/or コンステレーション、other?）
- 計測戦略（一品高機能 and/or 多数廉価版）
- 観測運用機関（NICT and/or アウトソーシング and/or 民間主導）
- 海外との連携・役割分担

□ そのために踏まえるべき条件の整理：

→ 衛星運用に対する指標・予警報のあり方（総務省検討会フォローアップ）

（「宇宙天気の高高度化の在り方に関する検討会」に連動した分析・検討）

- 検討会期間中：基本的な活動は検討会配下のWGで実施。衛星分科会はWGのヒアリング対象として対応
- 検討会終了後（2022年6月以降）：本分科会が継続課題の検討を継承

3. ひまわり衛星等宇宙環境観測データ 利活用イメージ

